

平成 29 年度用教科書のご案内

平成 29 年度よりご使用いただける教科書を編修部がご紹介します。ご検討の参考にしていただければ幸いです。

数学 I 新訂版 数学 A 新訂版



本書は、大学受験を強く意識している生徒向けの教科書で、豊富な例題とわかりやすい表現で構成し、かつ見やすい紙面となるように改訂しました。

■特徴 1 スリムな教科書

進学校を中心に「早く数学 I・A の内容を終え、数学 II などの指導に進みたい」「教科書はさらりと終えて、演習の時間を確保したい」という要望があることから、必要な学習要素は減らさずに、冗長であった部分の記述の見直しなどを行い、総ページ数を削減いたしました。

数 I：改訂前 208 ページ→新訂版 192 ページ

数 A：改訂前 192 ページ→新訂版 160 ページ

■特徴 2 学びやすさ・教えやすさに配慮

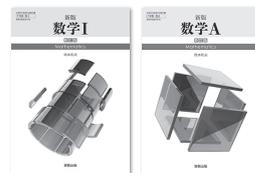
「例」には適宜端的なタイトルを太字で記し、学ぶ内容がわかりやすいようにしました。また、節末問題や章末問題で、校外模試やセンター試験を意識したマーク形式の問題を設けました（数 I p.44, 3絶対値を含む不等式の問題 など）。加えて、適宜「コラム」を載せました。興味深い内容であると同時に、学習効果の高い内容（数 I p.162, 「ヒストグラムと代表値の関係」など）で構成しました。

数学 I の「データの分析」の指導時間を十分にとれないという学校が少なくないことから、巻末の折込で「データの分析《公式集》」を掲載しました。公式とともに具体的な計算例を併記し、「データの分析」の内容全体が見渡せるようにしました。

■特徴 3 生徒の知的好奇心を刺激する題材

章扉では、その章の学習内容に深く関連する数学者とその数学者にゆかりのある大学の写真を載せました。巻末の「課題学習」では、社会生活に深く関連する題材を扱いました（数 I p.182, 「機内持ち込み手荷物」など）。

新版数学 I 新訂版 新版数学 A 新訂版



本書は、基本的な内容から発展的な内容まで段階を踏んで学べる教科書で、多様な生徒の実態に幅広く対応できるように改訂しました。

■特徴 1 丁寧な説明

段階的に学習を進められるように、学習内容はスモールステップで記述し、生徒が躓かないように配慮しました。例えば、数学 I のたすき掛け（数 I p.20, 21）は、見開き 2 ページで構成し、たすき掛けにおいて試行錯誤が必要であることがわかるように具体的な数値を用いて説明しました（p.20）。練習問題も、すべての係数が素数であるものから少しずつレベルアップしていく構成にしました（p.21, 練習 28）。

■特徴 2 生徒の自学自習に配慮

各ページの右側には、適宜ポイントをまとめた図解を載せ、視覚的にわかりやすいようにしました。また、各内容の導入は可能な限り具体例で記述し、その後の一般論や公式にスムーズにつながるようにしました。加えて、公式の導出や例題の解答における途中式なども、可能な限り省略せずに記述しました。

■特徴 3 多様な生徒に対応

例題を「例題」と「応用例題」の 2 種類に分け、学校・生徒の実態に合わせて選択的な授業が可能となるようにしました。また、各所に「参考」「研究」「発展」を適宜載せ、より学習を進めたい生徒が自主的に取り組めるようにしました。もちろん、必要があればこれらの「参考」「研究」「発展」も、授業で扱うことができるように記述してあります。

なお、センター試験に初めて出題された「データの分析」の内容を踏まえ、数学 I の 5 章：データの分析は、内容を全面的に見直しました。

新数学 I **新刊**
新数学 A **新刊**



「これまでの中間版教科書では分量が多く、終わらない」という学校や「大判教科書を使ってきたが、少し難しい内容も指導したい」という学校に最適な教科書です。

■特徴 1 小判教科書で最も精選された内容

本書は、小判 (A5 判) 教科書でもっとも精選された教科書を目指して編修しました (数 I 168 ページ, 数 A 136 ページ)。ページ数を抑えた分、1 つの学習項目にじっくりと時間をかけて指導することができます。

また、数学に苦手意識を持っている生徒にも教科書を読んでもらいたい、という願いから、紙面デザインは目にやさしい緑色系で統一し、柔らかい印象を持たせました。

■特徴 2 生徒目線の教科書

後述の「高校数学シリーズ」(大判)と同様に、数学 I の巻頭には、中学校の復習である「ウォームアップ」のページを設けました。中学校の学習事項のうち、高校の数学 I の 1 章「数と式」と関わりが深いものを掲載しています。また、各章の章扉は見開き 2 ページの紙面とし、生徒の興味・関心を惹くように、大きな写真と、内容の導入にふさわしい話題で構成しました。

■特徴 3 丁寧な記述と豊富な練習

本書は、上述のとおりページ数を抑えた教科書ですが、説明や式変形が丁寧になるよう、それらに十分なスペースをあてています。

また、練習問題もできるだけ多く載せ、反復練習が図れるようにしました。例えば、数学 I の平方完成 (数 I p.64, 65) では、見開き 2 ページで例と練習をステップごとに掲載し、反復・確認しながら学習を進められるようにしました。

高校数学 I 新訂版
高校数学 A 新訂版



本書は内容を精選した大判 (B5 判) の教科書で、数学に対して特に苦手意識を持っている生徒も少しでも数学を楽しめるように改訂しました。

■特徴 1 復習しながら学べる教科書

前述の「新数学シリーズ」と同様に、数学 I の巻頭で中学校以前の内容を学び直すことのできる「ウォームアップ」のページを設けました。正負の数の四則演算や文字式の計算に加え、要望の多かった「根号を含む式の計算」(数 I p.8 例 6) を新たに扱いました。また、教科書のページの端に、鉛筆マークをつけました (数 I p.12 ~ 19 など)。このマークがある箇所は、中学校などで学んだ内容であることを表しています。各章にこのような既習事項を扱うページを適宜入れ、高校の内容をスムーズに学習できるようにしました。

■特徴 2 理解しやすい「例」

「例」を薄い色の枠で囲み、参照しやすいようにしました。枠の右上に例の端的なタイトルを載せ、「ここは何を学ぶ例なのか」が生徒にとってわかりやすいようにしました。加えて、具体的な目標を「～してみよう。」のように問いかけの文で載せ、学ぶ内容がいつそうわかりやすいようにしました。

■特徴 3 使いやすい「付録」

巻末付録の「解答」では、改訂前は「節末問題」のみ掲載しておりましたが、要望の多かった「補充練習」や「自主トレーニング」の解答も掲載しました。また、巻末の折込では今回新しく「公式集」を掲載し、定期試験前の学習や総まとめに活用できるようにしました。加えて、数学 I の巻末の折込では「解答用グラフ用紙」を掲載し、「2 次関数」や「データの分析」で扱うグラフを直接書き込めるようにしました。

数学 A では、要望の多かった「記号の読み方 (例)」を掲載し (数 A p.134)、 $a \in A$ や $A \cap B$ などの読み方がわかるようにしました。